

令和5年度 教職員多忙化解消アクションプランⅡ取組状況調査結果

目次

1	調査の概要	1
2	調査結果	2～21
	(1) 部活動の在り方の見直しについて	2～4
	(2) 統合型校務支援システムの効果的な運用について	4
	(3) モニタリング校支援事業の推進について	4
	(4) 児童生徒一斉下校日の設定について	5～10
	(5) 夏季休業中における学校閉庁日の設定について	10～14
	(6) 会議・研修会の精選及び調査・統計等の整理について	14
	(7) 県教育委員会が発信するメールの見直しについて	14
	(8) 留守番電話の設置（県立学校）について	15
	(9) 業務の役割分担等の見直しについて	15
	(10) 会議の精選、会議の持ち方の見直しについて	15～16
	(11) 校務分掌における業務分担の適正化について	16～17
	(12) 大規模校へのスクール・サポート・スタッフの配置（小学校）について	17
	(13) 専門スタッフとの連携について	17
	(14) 小学校英語の専科指導教員の配置について	17
	(15) 小学校外国語教育に関する指導資料の配付や活用促進について	18
	(16) 小学校における教科担任制の推進について	18
	(17) ICT支援員の配置（県立学校）について	18
	(18) 多忙化解消に向けたその他の取組について	18～21

1 調査の概要

(1) 調査期間 発出：令和5年6月14日（水）回答期限7月3日（月）

(2) 調査対象 市町村立学校：223校（37.0% 全602校）

（小学校131/392校、中学校85/203校、義務教育学校7/7校）

県内全県立学校：99校

（中学校2校、高等学校73校、特別支援学校24校）

(3) 調査項目

① 部活動の在り方見直し

- ・学校の部活動に係る活動方針の公表の有無について
- ・部活動休養日の設定の有無等について
- ・部活動練習時間上限の設定の有無等について
- ・複数顧問制による顧問間で部活動に係る指導時間等の調整の有無について
- ・部活動指導員の配置による学校の多忙化解消について

② 統合型校務支援システムの効果的な運用

- ・校務支援システム導入による学校の多忙化解消について

③ モニタリング校支援事業の推進

- ・多忙化解消アクションプランⅡモニタリング校支援事業報告について

④ マネジメント体制の改善

- ・一斉下校日の設定の有無とその理由等について
- ・夏季休暇中における学校閉庁日の設定の有無とその理由等について
- ・会議・研修会の精選及び調査・統計等の整理について
- ・県教育委員会が発信するメールの見直しについて
- ・留守番電話の設置による時間外勤務時間の削減について

⑤ 校務の見直し

- ・奨学金に関する事務管理業務について
- ・会議の精選、会議の持ち方の見直しについて
- ・校務分掌における業務分担の適正化について

⑥ チーム学校による支援

- ・スクール・サポート・スタッフによる学校の多忙化解消について
- ・専門スタッフと連携できる体制について
- ・小学校英語の専科指導教員の配置による学校の多忙化解消について
- ・小学校外国語教育に関する指導資料の配付や活用促進について
- ・小学校における教科担任制の推進について
- ・ICT支援員による業務、校務、校内研修等の支援体制について

2 調査結果

(1) ①「学校の部活動に係る活動方針」を策定し、学校のホームページ等で公表していますか。

	小学校	中学校	義務教育学校	高等学校	特別支援学校
ホームページと保護者への配付物で公表している。	10.3%	16.9%	25.0%	38.3%	-
ホームページのみで公表している。	17.2%	18.1%	12.5%	13.6%	9.1%
保護者への配付物のみで公表している。	44.8%	26.5%	50.0%	29.6%	72.7%
口頭のみで説明している。	3.4%	20.5%	12.5%	7.4%	-
公表等はない。	24.3%	18.0%	-	11.1%	18.2%

○義務教育学校を除いて、10%以上は公表していない。

②部活動休養日(中学校:平日週1日及び土日いずれかを週1日以上)を設けましたか。(表中の%は学校種毎の回答の総計に対する比率)

	設けた					
	R5	R4	R3	R2	R1	H30
小学校	96.8%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	95.6%
中学校	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
義務教育学校	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	-	-
高等学校	96.3%	98.7%	97.4%	100.0%	93.8%	89.4%

※小学校、高等学校で部活動を実施していない学校や恒常的に活動を行っていない学校は、集計から除いている。

※特別支援学校においては、恒常的に部活動を行っていない学校もあることから表から除外した。

○小学校、高等学校を除いて、「設けた」が100%となっている。

③上記②で「設定しなかった」と答えた学校は理由を答えて下さい。

- ・年間をオンシーズン、オフシーズンに分け、均すと週2日になるように休養日を設定しているため。
- ・活動日が少ないため、休養日を設ける必要がない。

④土日に大会等があり休養日が設定できなかった場合は、原則として同月の別日に休養日を振り替えていますか。

	小学校	中学校	義務教育学校	高等学校
同月内にすべての休養日の振替を行った。	77.4%	90.5%	75.0%	23.4%
同月内に振替を行えなかった休養日もあった。	3.2%	7.1%	-	71.6%
休養日の振替はほとんど行えなかった。	-	2.4%	-	2.5%
休養日の振替は行っていない。	19.4%	-	25.0%	2.5%

○中学校において、同月内にすべての休養日の振り替えを行っている割合が90%以上であった。

⑤部活動練習時間上限（高等学校上限：平日 3 時間、休日 4 時間。中学校上限平日 2 時間、休日 3 時間）を設定しましたか。（表中の％は学校種毎の回答の総計に対する比率）

	設定した					
	R5	R4	R3	R2	R1	H30
小学校	93.5%	97.6%	100.0%	100.0%	100.0%	95.5%
中学校	100.0%	100.0%	98.9%	95.8%	96.6%	90.0%
義務教育学校	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	-	-
高等学校	96.3%	97.3%	100.0%	100.0%	98.6%	97.6%

※小学校、高等学校で部活動を実施していない学校は集計から除いている。

※特別支援学校においては、恒常的に部活動を行っていない学校もあることから表から除外した。

○小学校、高等学校を除いて、「設けた」が 100％となっている。

⑥上記⑤で「設定しなかった」と答えた学校は理由を教えてください。

主な理由

【小学校】

・練習時間が上限より短かったため。

【高等学校】

・練習時間が上限より短かったため。

⑦複数の顧問を配置することで、顧問間で部活動に係る指導時間等を調整していますか。（県立学校のみ）

	高等学校	特別支援学校
調整している。	56.4%	63.6%
部活動の指導は、複数の顧問で行うこととしているため調整していない。	14.1%	27.3%
部活動の自主性に任せているため、把握していない。	26.9%	-
その他	2.6%	9.1%

「その他」の回答

・複数顧問制だが指導時間を調整するほどの余裕はない。

・顧問間で調整して休養をとるよう声かけをしている。

○調整していない、把握していないが高等学校で 40％以上となった。

⑧部活動指導員の配置は学校の多忙化解消に役立ちましたか。(配置校のみ)

	中学校	義務教育学校	高等学校
大変役立っている。	75.5%	75.0%	38.6%
役立っている。	24.5%	25.0%	59.4%
あまり役立っていない。	-	-	2.0%
全く役立っていない。	-	-	-

○部活動指導員の配置は多忙化解消に役立っている。

(2) 校務支援システムは学校の多忙化解消に役立っていますか。

	小学校	中学校	義務教育学校	高等学校	特別支援学校
大変役立っている。	9.6%	9.9%	33.3%	12.9%	4.0%
役立っている。	70.4%	88.9%	66.7%	74.2%	64.0%
あまり役立っていない。	18.3%	1.2%	-	12.9%	32.0%
全く役立っていない。	1.7%	-	-	-	-

○概ね役立っている、大変役立っているとの回答であった。

(3) 多忙化解消アクションプランⅡモニタリング校支援事業報告は多忙化解消の参考になっていますか。

	参考になっている
小学校	77.2%
中学校	77.8%
義務教育学校	71.4%
高等学校	71.8%
特別支援学校	92.0%
計	75.9%

○特別支援学校を除き、参考になっていると回答しているのは7割程度であった。

(4) ①今年度、生徒に関する会議のための時間や授業力向上のための研究や研鑽の時間を確保するため、児童生徒一斉下校日を設けましたか。(表中の%は学校種毎の回答の総計に対する比率)

※ 特別支援学校については、特別な事情がない限り定刻下校を行っているため除外した。

		小学校		中学校		義務教育学校		高等学校	
R5	設けた	82.4%	95.4%	82.3%	97.6%	100.0%	100.0%	49.4%	98.8%
	一斉ではないが、部活動や学年単位で設けた。	13.0%		15.3%		—		49.4%	
R4	設けた	67.4%	97.0%	82.4%	98.8%	100.0%	100.0%	36.7%	98.7%
	一斉ではないが、部活動や学年単位で設けた。	29.5%		16.5%		—		62.0%	
R3	設けた	90.9%	95.4%	85.4%	100.0%	100.0%	100.0%	51.2%	98.8%
	一斉ではないが、部活動や学年単位で設けた。	4.5%		14.6%		—		47.6%	
R2	設けた	90.6%	97.4%	87.3%	100.0%	100.0%	100.0%	54.9%	97.9%
	一斉ではないが、部活動や学年単位で設けた。	6.8%		12.7%		—		43.0%	
R1	設けた	75.9%	—	78.3%	—	—	—	56.3%	—
H30	設けた	64.9%	—	57.5%	—	—	—	47.7%	—

※「設けた」には、スクールバスや公共交通機関の関係、あるいは部活動がない、または活動時間が短いことにより、設定していなくても一斉が下校となる学校も含んでいる。

○全校種とも一斉下校日を「設けた」と高い割合で回答している。

②児童生徒一斉下校日を設けた学校は何曜日に設けましたか。

(表中の%は学校種毎の回答の総計に対する比率)

学校種	月曜日						火曜日						水曜日					
	R5	R4	R3	R2	R1	H30	R5	R4	R3	R2	R1	H30	R5	R4	R3	R2	R1	H30
小学校	13.8%	9.0%	11.1%	10.0%	11.4%	11.5%	1.1%	-	1.0%	1.1%	-	1.6%	27.6%	25.8%	22.2%	20.0%	28.6%	26.2%
中学校	8.6%	7.1%	7.9%	9.8%	7.0%	4.3%	1.4%	1.4%	1.3%	-	4.7%	-	85.7%	85.7%	82.9%	80.3%	83.7%	82.6%
義務教育学校	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	85.7%	85.7%	66.7%	66.7%	-	-
高等学校	15.1%	20.7%	22.9%	24.3%	20.0%	21.4%	12.1%	10.3%	11.4%	13.5%	17.5%	16.6%	72.8%	65.5%	65.7%	62.2%	62.5%	61.9%
学校種	木曜日						金曜日											
	R5	R4	R3	R2	R1	H30	R5	R4	R3	R2	R1	H30						
小学校	2.3%	2.2%	2.0%	3.3%	1.4%	3.3%	55.2%	62.9%	63.6%	65.6%	58.6%	57.4%	小学校	87 校実施				
中学校	1.4%	2.9%	2.6%	3.3%	2.3%	4.3%	2.9%	2.9%	5.3%	6.6%	2.3%	8.7%	中学校	70 校実施				
義務教育学校	-	-	-	-	-	-	14.3%	14.3%	33.3%	33.3%	-	-	義務教育学校	7 校実施				
高等学校	-	3.4%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	高等学校	33 校実施				

○小学校は金曜日次いで水曜日が多い。

○中学校・高等学校は水曜日が圧倒的に多い。

③児童生徒一斉下校日を設けた主な理由について

○小学校においては授業のコマ数の都合で設定したが、中学校・高等学校においては、部活動の都合が多い。

【小学校】

	月曜日						火曜日					
	R5	R4	R3	R2	R1	H30	R5	R4	R3	R2	R1	H30
部活動の関係で設定しやすかった。	-	-	1	-	1	2	1	-	1	-	-	-
施設の関係で設定しやすかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
授業コマ数や課外の都合で設定しやすかった。	9	6	6	6	6	5	-	-	-	1	-	-
その他	2	1	4	3	1	-	-	-	-	-	-	-
計	11	7	11	9	8	7	1	0	1	1	0	1
	水曜日						木曜日					
	R5	R4	R3	R2	R1	H30	R5	R4	R3	R2	R1	H30
部活動の関係で設定しやすかった。	5	5	6	5	4	6	1	-	-	1	-	-
施設の関係で設定しやすかった	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	2
授業コマ数や課外の都合で設定しやすかった。	11	10	8	8	8	5	1	2	2	1	1	-
その他	8	7	8	5	6	5	-	-	-	1	-	-
計	24	22	22	18	19	16	2	2	2	3	1	2
	金曜日						計					
	R5	R4	R3	R2	R1	H30	R5	R4	R3	R2	R1	H30
部活動の関係で設定しやすかった。	1	-	-	2	1	-	8	5	8	8	6	8
施設の関係で設定しやすかった	1	-	-	-	1	-	1	0	0	0	2	3
授業コマ数や課外の都合で設定しやすかった。	40	41	51	48	27	29	61	59	67	64	42	39
その他	6	11	12	9	13	6	16	19	24	18	20	11
計	48	52	63	59	42	35	86	83	99	90	70	61

「その他」の理由

<月曜日>

- ・会議等を行うようにするため

<水曜日>

- ・ノー残デーとしたから
- ・週の中日であること

<金曜日>

- ・会議を設定したため

【中学校】

	月曜日						火曜日					
	R5	R4	R3	R2	R1	H30	R5	R4	R3	R2	R1	H30
部活動の関係で設定しやすかった。	5	3	5	4	3	1	1	1	1	-	1	-
施設の関係で設定しやすかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
授業コマ数や課外の都合で設定しやすかった。	1	1	1	1	-	1	-	-	-	-	-	-
その他	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-
計	6	5	6	6	3	2	1	1	1	0	2	0
	水曜日						木曜日					
	R5	R4	R3	R2	R1	H30	R5	R4	R3	R2	R1	H30
部活動の関係で設定しやすかった。	45	45	39	34	24	11	1	2	2	1	1	1
施設の関係で設定しやすかった	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
授業コマ数や課外の都合で設定しやすかった。	6	6	9	2	4	6	-	-	-	-	-	-
その他	9	7	15	13	8	-	-	-	-	1	-	-
計	60	59	63	49	36	19	1	2	2	2	1	1
	金曜日						計					
	R5	R4	R3	R2	R1	H30	R5	R4	R3	R2	R1	H30
部活動の関係で設定しやすかった。	1	1	-	1	-	1	53	52	47	40	29	14
施設の関係で設定しやすかった	-	-	-	-	-	-	0	1	0	0	0	2
授業コマ数や課外の都合で設定しやすかった。	-	-	3	3	1	-	7	7	13	6	5	7
その他	1	1	1	-	-	1	10	9	16	15	9	1
計	2	2	4	4	1	2	70	69	76	61	43	24

「その他」の理由

<水曜日>

- ・ノー残業デーとしたから
- ・週の中日であること
- ・市・県に準じたノー残業デー
- ・SCの勤務日と重なっていることが多く、休みにすることでカウンセリング後のコンサルテーションの時間が確保でき情報共有を図ることができるから。

<金曜日>

- ・単身赴任者が多い学校なので、教職員の生活に配慮し、それぞれの地元に帰りやすい金曜日に設定した。

【義務教育学校】

	月曜日						火曜日					
	R5	R4	R3	R2	R1	H30	R5	R4	R3	R2	R1	H30
部活動の関係で設定しやすかった。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
施設の関係で設定しやすかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
授業コマ数や課外の都合で設定しやすかった。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	水曜日						木曜日					
	R5	R4	R3	R2	R1	H30	R5	R4	R3	R2	R1	H30
部活動の関係で設定しやすかった。	5	2	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-
施設の関係で設定しやすかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
授業コマ数や課外の都合で設定しやすかった。	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	5	3	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
計	10	6	4	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	金曜日						計					
	R5	R4	R3	R2	R1	H30	R5	R4	R3	R2	R1	H30
部活動の関係で設定しやすかった。	2	1	1	1	-	-	7	3	4	2	0	0
施設の関係で設定しやすかった	-	-	-	-	-	-	0	0	0	0	0	0
授業コマ数や課外の都合で設定しやすかった。	-	-	1	-	-	-	0	1	1	0	0	0
その他	-	-	-	-	-	-	5	3	1	1	0	0
計	2	1	2	1	0	0	12	7	6	3	0	0

「その他」の理由

<水曜日>

- ・ノー残デーとしたから
- ・週の中日であること
- ・義務教育学校のため後期課程の部活動の都合で設定しやすかった。

【高等学校】

	月曜日						火曜日					
	R5	R4	R3	R2	R1	H30	R5	R4	R3	R2	R1	H30
部活動の関係で設定しやすかった。	5	6	6	6	8	9	3	3	3	3	4	4
施設の関係で設定しやすかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-
授業コマ数や課外の都合で設定しやすかった。	-	-	1	2	-	-	1	-	1	2	-	3
その他	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
計	5	6	8	9	8	9	4	3	4	5	7	7
	水曜日						木曜日					
	R5	R4	R3	R2	R1	H30	R5	R4	R3	R2	R1	H30
部活動の関係で設定しやすかった。	17	16	16	19	21	22	-	1	-	-	-	-
施設の関係で設定しやすかった	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
授業コマ数や課外の都合で設定しやすかった。	4	-	3	2	-	3	-	-	-	-	-	-
その他	3	2	4	2	4	-	-	1	-	-	-	-
計	24	19	23	23	25	26	0	2	0	0	0	0
	金曜日						計					
	R5	R4	R3	R2	R1	H30	R5	R4	R3	R2	R1	H30
部活動の関係で設定しやすかった。	-	-	-	-	-	-	25	26	25	28	33	35
施設の関係で設定しやすかった	-	-	-	-	-	-	0	1	0	0	3	1
授業コマ数や課外の都合で設定しやすかった。	-	-	-	-	-	-	5	0	5	6	0	6
その他	-	-	-	-	-	-	3	3	5	3	4	0
計	0	0	0	0	0	0	33	30	35	37	40	42

「その他」の理由

<水曜日>

- ・週の中日であること

④（平成30年度）以降、児童生徒一斉下校日は、どの程度実施することができましたか。

	小学校			中学校			義務教育学校			高等学校			合計		
	R5	R4	R3	R5	R4	R3	R5	R4	R3	R5	R4	R3	R5	R4	R3
ほぼ毎週下校できた。	72	76	84	66	61	67	12	7	6	11	10	11	161	154	168
7～8割で下校できた。	13	7	13	2	6	5	—	—	—	9	13	18	24	26	36
半分ぐらいの週で下校できた。	1	1	2	—	—	1	—	—	—	6	4	3	7	5	6
下校できた週が数週あった。	1	—	—	—	1	3	—	—	—	6	2	2	7	3	5
下校できた週は、ほぼなかった。	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	1	1	0	1

※無回答は除いた。

⑤児童生徒一斉下校日を「設けていない」と答えた学校の理由について（複数回答可）

【小学校】

- ・下校時刻は一定で、遅くなることはない。
- ・毎週何曜日ではなく、必要に応じて、翌月に設定した。
- ・学期毎に仲良し登校班を設定し、その際に一斉下校を行っている。
- ・一斉下校は実施していないが、毎週、月曜日と水曜日を全学年5校時としており、放課後の時間を確保しているため。
- ・毎週は設けていないが、必要な日に一斉下校日としている。
- ・一斉ではないが、毎週水曜日は短縮日課とし、15：00には児童を下校させている。
- ・会議の時は清掃をカットするなどして会議の時間を確保している。
- ・職員会議や打ち合わせを年間計画に設定し無理のない範囲で行っているから。

【中学校】

- ・部活動単位で休養日を設定し、管理職の管理のもと、生徒が週に1日程度、放課後すぐに帰宅できるようにしている。

(5) ①令和5年度夏季休業中の学校閉庁日の設定について

【学校閉庁日の予定】

	予定校数	調査校数	率
小学校	132	132	100%
中学校	85	85	100%
義務教育学校	7	7	100%
高等学校	85	85	100%

- 調査対象の全ての学校で夏季休業日に学校閉庁日を設定している。
- 多忙化解消アクションプランIIの趣旨は学校現場に伝わっている。

【学校閉庁日の予定】

	1日間						2日間						3日間					
	R5	R4	R3	R2	R1	H30	R5	R4	R3	R2	R1	H30	R5	R4	R3	R2	R1	H30
小学校		1	1				3	5	1	6			64	59	31	30	54	55
中学校			1	1			6	5	4	4			44	37	20	14	31	29
義務教育学校													10	3	2			
高等学校							3	2	1	2		1	82	76	45	84	87	
特別支援学校								1		1			19	18	2	19	23	23
	4日間						5日間						6日間以上					
	R5	R4	R3	R2	R1	H30	R5	R4	R3	R2	R1	H30	R5	R4	R3	R2	R1	H30
小学校	16	15	47	90	51	32	40	48	52	2		7	9	1			11	
中学校	4	8	31	46	22	9	25	33	33	4		2	5				7	
義務教育学校		2	2	3			4	2	2									
高等学校		1	38	2														
特別支援学校	6	5	21	3														

○すべての校種で、3日間の設定が最も多かった。

○6日以上と長く設定している学校が小中で増加傾向にある。

②上記①で「予定している」と答えた学校はいつ設定しましたか。

8月5日(土)	8月15日(火)	6日間	(11連休)	8
8月7日(月)	8月15日(火)	6日間	(9連休)	4
8月7日(月)	8月18日(金)	9日間	(11連休)	1
8月8日(火)	8月16日(水)	6日間	(9連休)	1
8月9日(水)	8月16日(水)	5日間	(8連休)	66
8月10日(木)	8月15日(火)	3日間	(6連休)	27
8月10日(木)	8月16日(水)	4日間	(7連休)	25
8月10日(木)	8月17日(木)	5日間	(8連休)	3
8月11日(金)	8月16日(水)	3日間	(6連休)	33
8月11日(金)	8月15日(火)	2日間	(5連休)	2
8月11日(金)	8月17日(木)	4日間	(7連休)	1
8月12日(土)	8月15日(火)	2日間	(5連休)	8
8月12日(土)	8月16日(水)	3日間	(6連休)	10
8月13日(日)	8月15日(火)	2日間	(5連休)	1
8月13日(日)	8月16日(水)	3日間	(6連休)	1
8月14日(月)	8月15日(火)	2日間	(5連休)	6
8月14日(月)	8月16日(水)	3日間	(6連休)	134
8月14日(月)	8月17日(木)	4日間	(7連休)	5
8月14日(月)	8月18日(金)	5日間	(8連休)	2

○8月14日(月)～8月16日(水)に設定した学校が最多であった。

③学校閉庁日期間中に出勤する予定の職員はいますか。

(表中の%は学校種回答の総対する比率)

	いる					
	R5	R4	R3	R2	R1	H30
小学校	10.7%	7.8%	4.5%	28.9%	19.0%	25.5%
中学校	9.4%	9.5%	15.7%	36.1%	11.7%	10.0%
義務教育学校	21.4%	14.3%	16.7%	33.3%	—	—
高等学校	9.4%	22.8%	10.7%	6.7%	21.8%	39.8%
特別支援学校	8.0%	12.5%	13.0%	4.3%	16.4%	26.1%

○令和5年度の学校閉庁日期間における出勤は、高等学校、特別支援学校で減少しているが、小学校、義務教育学校で増加している。

④学校閉庁期間中に教職員が勤務する学校数

	管理職						管理職以外					
	R5	R4	R3	R2	R1	H30	R5	R4	R3	R2	R1	H30
小学校	13	13	16	60	22	38	7	5	1	4	3	7
中学校	6	11	20	34	7	7	4	7	4	5	1	3
義務教育学校	4		1	1			3	2				
高等学校	1	1	0		3	9	6	26	14	10	11	43
特別支援学校			0				1	1	2	1		
計	24	25	37	95	32	54	21	41	21	20	15	53
	事務職員						計					
	R5	R4	R3	R2	R1	H30	R5	R4	R3	R2	R1	H30
小学校							20	18	17	64	25	45
中学校							10	18	24	39	8	10
義務教育学校							7	2	1	1		
高等学校	1	3	1	2	5	11	8	30	15	12	19	63
特別支援学校	1	1	2			1	2	2	4	1		1
計	2	4	3	2	5	12	47	70	61	117	52	119

○小学校と中学校においては管理職の出勤が多く、学校数が増加している。高等学校においては出勤する教員が減った。

⑤勤務する教職員の主な業務

【小学校】

校長：校内巡視、学校行事、施設管理

副校長・教頭：校内巡視、学校行事、施設管理

主幹教諭・教諭：研修、出張

【中学校】

校長：校内巡視、施設管理

副校長・教頭：校内巡視、施設管理、出張、行事への参加

主幹教諭・教諭：部活動、研修

【義務教育学校】

校長：行事への参加

副校長・教頭：行事への参加

主幹教諭・教諭：行事への参加、部活動

【高等学校】

校長：行事への参加

副校長・教頭：行事への参加

主幹教諭・教諭：部活動、施設管理、行事への参加

事務職員：施設点検等

【特別支援学校】

主幹教諭・教諭：研修

事務職員：施設点検等

(6) ①県教育委員会が主催する会議や研修会の精選は進んでいると思いますか。

	高等学校	特別支援学校
大変進んでいる。	3.5%	-
進んでいる。	49.4%	72.0%
進んでいない。	44.7%	18.0%
全く進んでいない。	2.4%	-

○進んでいないと回答した割合は高等学校で高い。

②県教育委員会が発出する依頼や調査事項は、重複した調査を行わないなど、学校の負担軽減に配慮されていると思いますか。

	高等学校	特別支援学校
大変配慮されている。	2.4%	-
配慮されている。	38.8%	52.0%
あまり配慮されていない。	55.3%	44.0%
全く配慮されていない。	3.5%	4.0%

○配慮されていないと回答した割合が高等学校、特別支援学校ともに高い。

(7) 県教育委員会が発信するメールは、添付ファイル数等の配慮がされていると思いますか。

	高等学校	特別支援学校
大変配慮されている。	4.7%	-
配慮されている。	18.8%	48.0%
あまり配慮されていない。	70.6%	52.0%
全く配慮されていない。	5.9%	-

○配慮されていないと回答した割合が高等学校、特別支援学校ともに高い。

(8) 留守番電話の設置により、時間外勤務時間の削減に役立っていますか。

	高等学校	特別支援学校
大変役立っている。	21.2%	12.0%
役立っている。	51.7%	36.0%
あまり役立っていない。	21.2%	48.0%
全く役立っていない。	5.9%	4.0%

○あまり役立っていないと回答した割合が特別支援学校で高い。

(9) 奨学金に関する事務管理業務は、教員と事務職員が協働で取り組むよう、校内体制の見直しを図っていますか。

	高等学校	特別支援学校
見直しを図り、協働で取り組んでいる。	15.3%	4.0%
見直しを図ったが、協働で取り組むには不十分だ。(さらなる見直しが必要)	9.4%	-
見直しは行っていないが、協働で取り組んでいる。(既に協働で取り組んでいる)	48.3%	4.0%
見直しは行っていないため、協働では取り組んでいない。	18.8%	-
奨学金に係る業務が少なく、見直す必要がない。	8.2%	92.0%

○校内体制の見直しを図って、教員と事務職員が協働で取り組んでいる割合は低い。

(10) ①会議の精選、会議の持ち方の見直しを行いましたか。(表中の%は学校種毎の回答の総計に対する比率)

	行った					
	R5	R4	R3	R2	R1	H30
小学校	98.5%	98.5%	99.2%	80.5%	94.8%	91.5%
中学校	97.6%	97.6%	100.0%	98.6%	88.3%	80.0%
義務教育学校	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	-	-
高等学校	94.1%	91.1%	89.3%	77.5%	70.1%	56.8%
特別支援学校	100.0%	100.0%	100.0%	95.7%	91.3%	91.3%
計	97.1%	96.6%	97.0%	85.1%	85.7%	77.1%

○全体として、97%以上の学校で見直しを行っている。

②会議の精選、会議の持ち方の見直しについて、どのような取組を行いましたか。(複数回答可。表中の数字は回答数)

	小学校	中学校	義務教育学校	高等学校	特別支援学校	計
スタンディング会議を行った。	9	2	2	1	4	18
時間制限を向けた。	85	42	9	23	13	172
参加メンバーを見直した。	36	24	7	11	12	90
校内イントラを活用し事前に資料配付や事後の議決周知を行った。	39	35	8	39	14	135
会議をペーパーレス化した。	74	54	14	58	20	220
オンラインで会議を行った。	12	2	3	8	14	39
その他	21	8	-	-	-	29
計	276	167	43	140	77	703

○会議のペーパーレス化が進んでいる。

「その他」の取組

【小学校】

・説明の簡略化 ・資料の事前配付 ・内容の精選 ・会議の削減

【中学校】

・資料の事前配付 ・内容の精選 ・会議の削減

(11) ①校務分掌における業務分担の適正化を行いましたか。(表中の%は学校種毎の回答の総計に対する比率)

	行った					
	R5	R4	R3	R2	R1	H30
小学校	99.2%	98.5%	97.0%	96.1%	95.7%	85.1%
中学校	100.0%	97.6%	96.6%	93.1%	95.0%	92.5%
義務教育学校	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	-	-
高等学校	94.1%	87.3%	86.9%	87.6%	72.4%	56.8%
特別支援学校	100.0%	91.7%	91.3%	87.0%	95.7%	82.6%
計	98.2%	95.1%	94.6%	92.4%	88.5%	75.9%

○全校種において高い割合で、適正化の取組を行っている。

②どのような取組を行いましたか。(複数回答可。表中の数字は回答数)

	小学校	中学校	義務教育学校	高等学校	特別支援学校	計
学校内規の改正を行った。	20	24	4	43	13	104
業務慣行の見直しや、業務の明文化を行った。	105	61	10	46	18	240
委員会組織の改編等を行った。	69	51	12	41	12	185
その他	6	2	-	-	-	8
計	200	138	26	130	43	537

○多くの学校で業務慣行の見直しや、業務の明文化を行っている。

委員会組織の改編等も多く行っている。

「その他」の取組

【小学校】

- ・業務分担の平均化
- ・特設の廃止
- ・複数担当者による協働体制とした。

【中学校】

- ・業務分担の平均化

(12) スクール・サポート・スタッフは学校の多忙化解消に役立っていますか。

	小学校		中学校		義務教育学校	
	R5	R4	R5	R4	R5	R4
大変役立っている。	91.7%	93.4%	84.7%	87.1%	87.5%	-
役立っている	8.3%	6.6%	15.3%	12.9%	12.5%	-
あまり役だっていない	-	-	-	-	-	-
全く役立っていない。	-	-	-	-	-	-

○スクール・サポート・スタッフは学校の多忙化解消に役立っている。

(13) スクール・カウンセラー、スクールソーシャルワーカー、教育支援アドバイザー等の専門スタッフと連携できる体制は、整備されていますか。

	小学校	中学校	義務教育学校	高等学校	特別支援学校
大変整備されている	26.2%	31.8%	78.6%	75.3%	20.0%
整備されている	73.1%	56.5%	21.4%	23.5%	68.0%
整備されていない	0.7%	0.0%	-	1.2%	12.0%
全く整備されていない	-	-	-	-	-

○専門スタッフと連携できる体制は全ての校種において高い割合で整備されている。

(14) 小学校英語の専科指導教員の配置は学校の多忙化解消に役立っていますか。

	小学校
大変役立っている。	86.8%
役立っている。	10.6%
あまり役立っていない。	2.6%
全く役立っていない。	-

○小学校英語の専科指導教員の配置は学校の多忙化解消に役立っている。

(15) 「イングリッシュ・コンパス」や「イングリッシュ・ウィンド」等の小学校外国語教育に関する資料は、外国語の授業づくりの効率化に役立っていますか。

	小学校	義務教育学校
大変役立っている。	16.4%	7.1%
役立っている。	78.1%	92.9%
あまり役立っていない。	5.5%	-
全く役立っていない。	-	-

○小学校外国語教育に関する資料は、外国語の授業づくりの効率化に役立っている。

(16) 小学校高学年における教科担任制は進んでいると思いますか。

	小学校	義務教育学校
大変進んでいる。	3.1%	61.5%
進んでいる。	53.5%	23.1%
進んでいない。	42.6%	15.4%
全く進んでいない。	0.8%	-

○教科担任制が進んでいない割合が小学校で4割であった。

(17) ICT 支援員による業務、校務、校内研修等の支援体制は整備されていると思いますか。

	高等学校	特別支援学校
大変整備されている。	8.2%	12.0%
整備されている。	77.7%	84.0%
整備されていない。	12.9%	4.0%
全く整備されていない。	1.2%	-

○ICT 支援員による支援体制は整備されてきている。

(18) 調査項目以外に多忙化解消に向けて実践している取組はありますか。

【小学校】

- 1 ノー残業デーの実施
- 2 休日の地域行事参加の見直し
- 3 事務整理時間の確保（評価時期の短縮時程）
- 4 多忙化解消アクションプランⅡの読み合わせ、内容理解。
- 5 年度替わり・学期替わりの下校時刻の短縮により、事務整理の時間を生み出す。
- 6 校務分掌の見直し、行事の簡略化
- 7 一斉退勤デーの実施。また、各自がその日の退勤目標時刻を可視化できるよう「タイムマネジメ

ントカード」を利用している。

- 8 交換授業の実施
- 9 施錠予定時刻の予告
- 10 教科等の教材のデータベース化
- 11 ICTを活用した調査・アンケートの実施と集計
- 12 現職教育等の会議や研究授業でのタブレットの活用
- 13 特設部活動の精選
- 14 朝の欠席遅刻連絡を電話でなく、メールシステムで行う。
- 15 留守番電話の設定
- 16 FCS アカウントの整備と活用
- 17 繁忙期の月は、短縮日課とし、放課後の時間を確保している。
- 18 18時半以降の電話対応は行わない。
- 19 保護者あての文書、お便りの精選
- 20 早めの相談でのチーム対応及び個別の支援
- 21 通知表2期制へ移行
- 22 週報による2週間先の見通しの共有
- 23 ICT支援員の有効活用
- 24 長期休業中に与える課題・コンクールの精選
- 25 アクションプランを自校化し、具体的な取組や数値目標を明文化し、共通理解を図った。
- 26 担任の空き時間増
- 27 午前5校時の実施
- 28 多忙化解消推進委員を設けている。

【中学校】

- 1 校務支援ソフトによる生徒に関する情報管理の電子化やオンラインアンケートアプリケーションを活用したアンケートの実施
- 2 生徒の一斉下校日には、教職員にも早めの退勤を促している。
- 3 会議の精選
- 4 Google フォームを用いた欠席報告
- 5 PTA 活動の見直し、教育課程計画の見直し等
- 6 保護者に教員の勤務時間や本校で行っている働き方改革について周知した。
- 7 勤怠管理システムの活用（出退勤を客観的に把握）
- 8 ノー残業デーを設定している。
- 9 業務改善プロジェクトの実施
- 10 指導要録の電子化
- 11 部休日を固定し、放課後の時間を確保している。
- 12 学校運営計画のデータ化
- 13 部活動指導員の有効活用
- 14 テストや成績処理などの事務整理を行う時間を何日間か確保し、超過時間の削減につなげてい

る。

- 1 5 教頭の定時退勤日の設定
- 1 6 長期休業中の休みのまとめ取り
- 1 7 勤務時間前の活動の中止
- 1 8 出張終了後、学校に戻るまでに勤務時間を超える場合は、校長へ連絡し、戻らないことを原則とする。
- 1 9 職員室の先生方の机上の棚等を取り払い、「顔が見える職員室」に整備し、日常的に情報交換や打合せができるようオフィス環境を整えた。
- 2 0 巡視簿は押印からサインとし、無駄な作業を減らす。
- 2 1 家庭訪問の見直し
- 2 2 留守番電話を導入して、電話対応の時間を削減した。

【義務教育学校】

- 1 毎週水・金を「ノー清掃日」として日課を短縮し、退校時間を早めている。
- 2 学期末事務整理日を多く設定した。
- 3 教員の勤務時間と児童生徒の登校時間の見直し。
- 4 地域人材の活用

【高等学校】

- 1 休暇の取得を申し出やすい雰囲気づくりを心がけている。
- 2 スクール・サポート・スタッフの有効活用
- 3 管理職からの、適宜「年休」「振休」取得の働きかけ
- 4 定例職員会議を年5回としている。
- 5 朝の校舎解錠時刻の繰り下げ、長期休業中の施錠時刻の繰り上げ
- 6 毎週水曜日を「ノー残業デー」として、職員の努力目標に掲げている。
- 7 生徒欠席等連絡システム（れんらくアプリ）の導入
- 8 教職員の時間外勤務が45時間を超えた職員へ、声かけやメモを配付して注意を喚起している。
- 9 ICTの活用により朝打合せの連絡事項等や学校日誌を一体化させたシートを活用している。
- 1 0 朝打合せ回数を削減した。
- 1 1 朝の打ち合わせを週3回、その他はイントラで、マイクロソフト TEMS を活用し、スマホでも閲覧できるようにした。
- 1 2 PTA、同窓会など関係団体の活動内容の精選、見直し
- 1 3 執務室の集約化を図り、風通しのよい職場づくりに努めている。
- 1 4 19時20分には機械警備がセットできるように、計画的に業務を進めるように働きかけをしている。
- 1 5 学校行事の精選
- 1 6 放課後会議時の短縮45分授業、学校の巡回施錠職員の任用
- 1 7 教員が生徒と向き合える時間・教材研究の時間確保のために、報告事項の時間短縮など司会をすすめる上での工夫をし、定例職員会議にかかる時間を短縮した。
- 1 8 人事評価面談等の機会を捉えて、管理職による業務改善や見直しのための面接を行っている。

【特別支援学校】

- 1 毎日の朝の打ち合わせを廃止し、週2回 16:30～16:45 に行う職員打ち合わせに変更した。
- 2 施錠時刻の周知
- 3 ノー残業デー、リフレッシュデーの設定
- 4 学期末に、評価週間を設定し対象となる週は会議や打ち合わせを行わないようにしている。
- 5 学級費等の口座引き落としへの変更
- 6 教育課程や指導計画の見直し。
- 7 校務分掌の見直しについて職員の意見(アイディア)を出してもらい、次年度の校務分掌(組織)に反映させようとしている。
- 8 会議の持ち方の見直し(運営委員会の持ち方)、各種様式のリンク、スクールバスの添乗業務の見直しを行った。